



THE KŌHŌ NANKOKU

広報 高知

第 87 号

昭和42年7月1日

編集発行
南国市広報委員会

事務所
高知県南国市役所内
(電 42111)

印刷 川比印刷株式会社
(電 43151・有線155-11)



水の季節

夏はこどもの天国です。

水に親しむ子どもたちの姿は、みるからにたのしく、ほほえましく感じられます。

市内の小中学校にはそれぞれプールが完備されていて、泳ぎを知らない子どもたちはみられなくなりました。

しかし、水による子どもたちの犠牲者は年々絶えることなく、繰り返されていますが、ことしこそは子どもたちを水の事故から守りたいものです。

といわれた手術なども可能となるなど、交通事故とともに多量の輸血を必要とするものは数限りなくあるようだ。不評をかった売血による採血は行なわなくなったため、一般の人たちの献血に頼らざるを得ないのが現状である。

▼人工肺、人工心臓など医学の発達は驚くばかりであるが、絶対量の不足する血液も、人工できないものだろうか。



疾患など不可能
県内での血液の
需要量には二千
五百人ほどの血
液が不足してい
る。むしろ心臓

▲上をみれば果はないといわれる
とおり、お金にしる、物質にしる有
り余って満足する人たちがいると
は考えられない。血液にしてしか
り、有り余って困ったというこ
とはいまだに聞
かない。むしろ

7月の人口

＝5月の異動＝

出生	41	死亡	26
転入	212	転出	272
5月末の人口		42,623	
世帯数			
5月末		11,699	

南国市における献血運動は、協
議会ができてから去る六月に満一
年をむかえて、延二百五十人ほど
の献血者を数えたが、まだまだ市
民の関心が薄いようである。血液
さえ確保できれば生命を取り止め
た不幸な人たちもあるだろう。